

令和6年度 自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

国立音楽大学大学教育研究協議会

（責任者名）梅本実

（役職名）学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	全専攻・専修の基礎科目（必修科目）として「AI・データサイエンス」を開講している。担当教員及び教務課員が履修状況と単位修得状況を把握している。オンデマンド形式で開講されており、専用学習システム、本学LMS、Google Classroom等を活用している。学生向けのシステム使用法の指導については、動画コンテンツを担当教員が作成している。学習管理システム上を用いて、履修者ごとに講義内容の進捗状況、課題やレポートに対する回答状況などの学習履歴を包括的に確認でき、担当教員は学習履歴を把握・分析し、課題の提出状況や小テストの成績を基に全受講者の学修状況の管理を行っている。2024年度履修する全学生282名のうち、262名（92.9%）が合格した。
学修成果	本学が導入している専用学習システムにおいて、本教育プログラムを構成する教材内の課題は自動採点され、提出状況を確認することができる。全15回の授業を期間を定めて配信しており、各授業で小テストを設けている。小テストは自動採点されるため、学生が自身の理解度を即時に把握できるようになっている。また、配信動画についても期間中は繰り返し閲覧することが可能となっているため、より理解を深めることができる。 また、単位取得状況等については、教務委員会に報告するとともに、大学教育研究協議会にて学修成果のさらなる向上に向けた施策の検討を行っている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学生アンケートを実施し、統計的分析法のトピックモデルにより重要語を抽出した結果、「オンライン方式」「授業内容」「動画の内容」に関するトピックが抽出された。授業内容については「データやAIの重要性、コンピュータの使い方を学ぶことができた。社会で必要な技術を学ぶことができた」「動画の内容が分かりやすかった。事例が具体的でわかりやすかった」という声があった。さらに「自分の都合のいい時間、都合のいい場所でオンラインで受講できる」「動画を何度も見返すことができたので勉強しやすかった」などの声があり、十分に理解できていると考えられる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	全学生への必修科目であるため、他の学生への推奨度に関する文言は特に見当たらなかったものの、「この授業の内容、講義内容に対する満足度（最低1、最高5）」については、平均3.5（標準偏差0.95）であり、多少のばらつきはあるものの、おおむね満足している様子が見られた。このように学生による満足度も高いため、後輩の学生へ推奨できる科目として位置づけられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	2024年度より新1年生全員が必修科目として受講しており、また不合格となった場合は次年度に再履修するため、履修者数は100%の状態を保っている。さらに次年度以降も全入学生の必修科目としているため、今後も履修率100%を保った運営を継続する。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムは令和6（2024）年度に開講し、1学年の必修科目として履修をさせている。そのため、現時点で、本教育プログラム修了者はまだ在学中である。今後の取組みとして、キャリアを担当している学生支援課と連携しながら本教育プログラム修了者に対して、学修内容をどのように活用し、どのように社会で役立てているか等、個別にアンケート調査を実施し、その結果を今後のプログラム内容の改善に役立てる予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	教育プログラムは、すでに複数の大学で実績のあるオンラインコンテンツを利用している。このコンテンツでは、実社会の現状に応じた内容が組み込まれており、また、各回の動画コンテンツはさらに短い複数の動画から構成されており、効率よく学びができるように工夫されている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	授業が始まる前の新入生オリエンテーション時に、「AI・データサイエンス」を学ぶ意義や目的を動画で伝え、視聴させることで意義を伝えている。また、Google Classroomを通じて定期的に学ぶ意義を伝えることで、学生の学ぶ意欲を向上させる努力をしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	授業に用いている授業コンテンツは毎年内容の一部を見直ししながら構築されている。社会の変動やニーズを踏まえた変更を行なうことで、受講者の学びの質を向上させている。
※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	